

高田援護室長の模型部屋(第18回)

皆さん、こんにちは。新年度が始まり、新生活を始められた方も多いのではないのでしょうか。今年も沢山の若者が自衛隊に入隊してくれました。ここ高田駐屯地でも新隊員の元気な声が響いています。私も新潟の親元を離れて神奈川の武山駐屯地に入隊し、環境の激変にショックを受けましたが(笑)あれからちょうど30年経ちました。後数年で定年ですよ…今になると時間の経つのは早いですよね…

28年度の定年退職者と任期満了隊員の再就職が決定しました。自衛官という人材を雇用していただいた企業様、ありがとうございました。さて、話しは変わりますが、今年も全国の駐屯地や基地などで記念行事等が開催されます。自衛隊ファンの皆様はどちらに足を運ばれるのでしょうか。ぜひ、自衛隊を知って、見て、感じてください。さて、今回紹介するのは…

75式自走155ミリ榴弾砲です。



75式自走155ミリ榴弾砲は、それまで使用していた米軍供与のM44 155ミリ自走榴弾砲の後継装備で1975年に正式化された自走榴弾砲です。主に北部方面隊の特科部隊に配備されていました。詳しい性能等はネットで調べてください。私は機甲科なので、よく知らないのですよ…すみません。

とはいえ、私が北海道の第7師団勤務時、戦車部隊の共同部隊と一緒に訓練に参加していました。もちろん、近接戦闘部隊の私が自走砲を見ることはありませんでしたが、訓練開始前後に集結地で見たり、第7師団の観閲行進時にその走行シーンを見たりしていました。

キットはモノクロームさんのです。新潟でなかなか購入できなくて、アキバ遠征で購入しました。6000円超えのキットは、我が家の防衛費に打撃を与えました(泣)



キットはストレート組です。当初からエッチングパーツやアルミ製砲身、組立式履帯など、ディテールアップキットを別購入しなくとも精密感あふれる出来上がりとなります。塗装はGSIクレオスの陸上自衛隊戦車色セットを使用し、基本色の茶色を全体に塗り、その後濃緑色の境界線を筆塗りし、その内側を塗装、デカールでマーキングした後はトップコートを吹き付け、デカールと塗装面の一体化の処置を施しました。



履帯はゴム履帯でキット化されています。全体をフラットブラックで塗装し、コネクタやセンターガイドをメタルカラーのダークアイアンで塗装しました。その後、ウェザリングスティックのマッドを筆塗りし、乾燥後、接地面を濡れ綿棒で擦り取り、路上走行時を表現しました。ライト類は透明部品でなかったのでWAVEのクリアレンズセットを使用しています。



北海道に限らず演習場の土は粒子が細かく、雨が降ると泥濁化し、乾燥するとすぐに舞い上がります。なので、訓練中の車体は常に埃をかぶった状態になっています。そこに雨が降ったりするので上から部品に流れ落ちた跡がつきます。

今回も基本塗装後、サクラマツ水彩マルチ絵の具でスミ入れした後、ウェザリングスティックでサンド、ダークアース色を擦り付け、濡らした平筆や綿棒で伸ばしたり拭き取ったりしてそれらを表現します。水彩マルチでのスミ入れの時に、水の中に食器洗剤を一滴垂らす事で、塗膜の表面で弾かれなくなり、隅々まで流れ込んでくれるようになります。今回はその技法でかなり捗りました。



転輪に付着した泥は遠心力により中心から外周に向かい、そのため転輪の外側に泥が溜まり、そこで固まります。これも濡れ綿棒で中心から外側に向かい擦り取って表現しました。

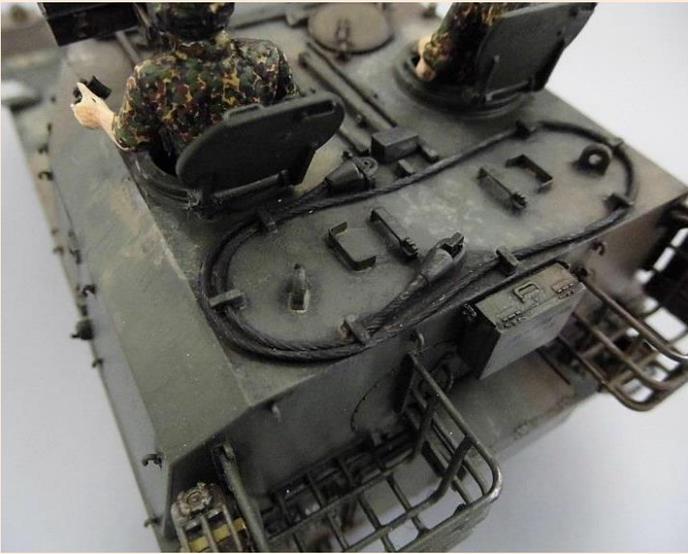


乗員が乗り降りする際に泥が車体上部に付着します。どの車両でもそうなのですが、車体上部の泥は意外に流れ落ちません。傾斜がある部分は別ですが、このように付着したまま乾いてしまいます。これもウェザリングスティックと濡れ綿棒での表現です。

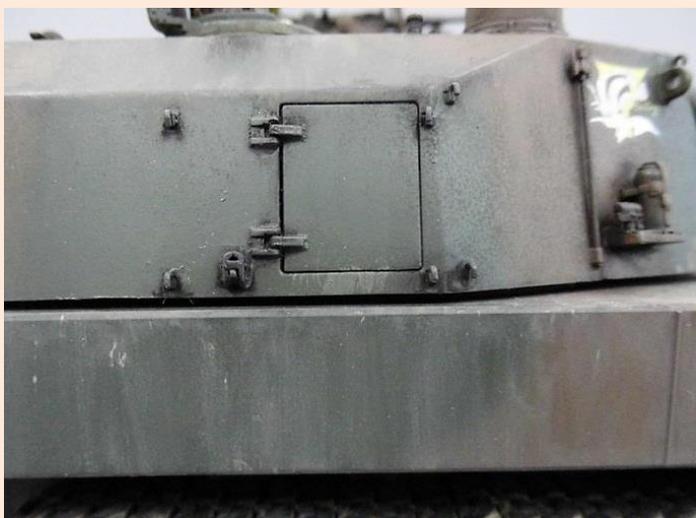


また、乗員の乗り降りや擦れた部分や駐車時に覆う防水シートで擦れる角の部分は塗装がはがれて地金が露出します。これもメタルカラーのダークアイアンをドライブラシして、綿棒で擦って金属感を出しました。

実車だと、このような部分が「擦れて地金露出」→「錆びる」→「擦れて地金露出」→「錆びる」・・・を繰り返すことになるので、塗装の際の参考にしてください。



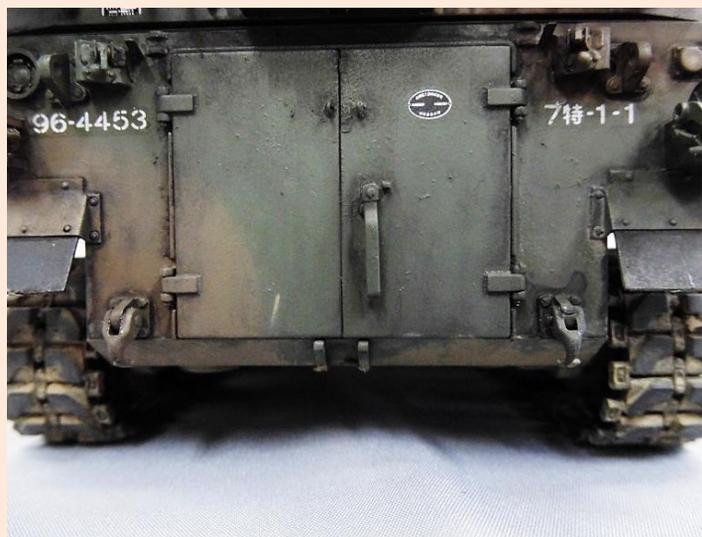
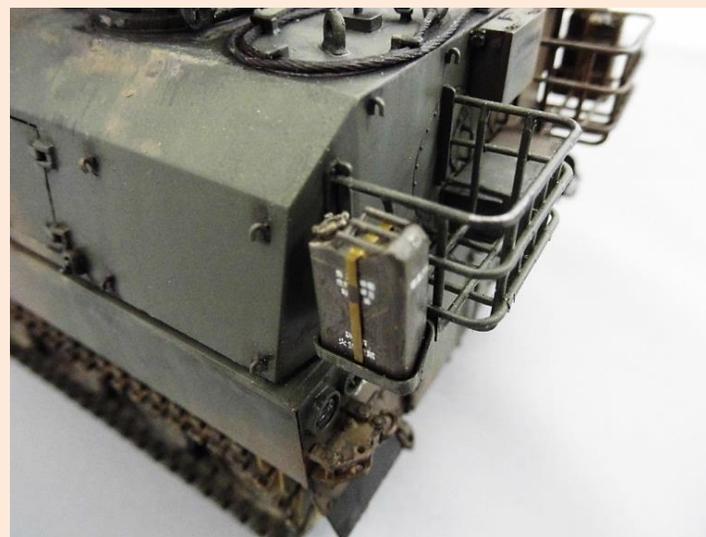
重機関銃、牽引ワイヤーは、フラットブラックの上にメタルカラーのダークアイアン(今回は多用しました。)を塗り、綿棒で擦りました。表面が擦れて露出した金属感が出ます。このほかにも鉛筆の芯の粉をこすり付けるといこともやっているのですが、今回は別の手法を試してみました。砲口も防水シートで擦れて角の地金が出ます。



車体側面のハッチについては、隙間に流れ込んだ埃や泥が下部から流れ出る感じを表現しました。予備履帯は実車同様にフラットブラックで塗装してます。土工具はOD色または迷彩色のどちらかの色です。濃緑色のほうが多いかな…参考までに



特科隊員のフィギュアはピットロード社を使用し、頭は旧型戦車帽が使用されていたのでタミヤの74式戦車から流用しました。この頃の防弾チョッキは最初から弾嚢が縫い付けられているタイプなので、プラリアアで複製して取り付けてます。あまり分かりませんが(泣)迷彩パターン…大失敗です。次はうまく塗ります。



砲塔に取り付けられた携行缶はOD色です。こんな高いところにあったら使う時にめんどくさそうです。エッチングパーツの固定バンドを使用してます。車体後部ハッチ下部も走行時の泥の巻上げで汚れます。今回は控えめにしました。



戦車では砲塔を横に向けて疾走する姿が好きなのですが、自走砲ではそのような使用はしませんのでやはりこの射撃姿勢が最高です。仰角を上げた射撃姿勢！！

「15榴、効力射4発、4発連続斉射、斉射ようい……撃て！」「ドカーン！」「だんちゃーく、今！！」
総合火力演習のビデオのように、机の上で射撃シーンを再現する私、呆れた目で見える娘達…

さて、今回はここまで。長々と紹介してしまいました。

そうそう、28年度の新潟地本ホムペのアクセス数で、本コーナーが第2位の成果を得ることが出来ました。皆様ありがとうございました。引き続き、我が家の防衛費が続く限り、模型を作り続け、皆様に紹介できたらと思います。今後ともよろしくお願いたします。